

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		空				公表日	令和7年10月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	加配職員や専門職員を配置し、手厚く支援を行っている。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0			
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	空間を広くとっている。 椅子や机を動かせるため、活動に応じて空間を作ることができる。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	別室があり、状況に応じて利用できるようになっている。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0			
	9	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0			
適切な支援の提供	10	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	毎年支援プログラムをホームページで公表している。 公表された際は保護者にお伝えし、確認していただけるようにしている。		
	11	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0			
	12	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	面談前後に職員全員でミーティングを行い、日々の利用者の姿や状況を話し合い、計画の検討を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0			
	14	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0			
	15	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0			
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	毎日活動内容についてミーティングを行っている。		
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	散歩やウォーキング、製作活動など、目的をもって活動を考え実行している。		

△	18	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	毎日ミーティングを行い、活動内容や支援方法について打ち合わせを行っている。	
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	毎日ミーティングを行い、振り返りを行っている。その日のうちにできないときは翌日にミーティングを行い、情報の共有を行っている。	
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	毎日記録を取り、日々の様子を確認している。普段と異なる姿があれば、職員間で話し合い、特記事項として記録をとっている。	
	22	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
	23	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7	0		
	24	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	イベントの際の昼食決めや活動の際などに、選択の機会を設けている。利用者に応じて選択方法を工夫し、本人が選びやすいように支援している。	
△	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	26	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		
	27	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0		
	28	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0		
	29	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	日頃から引き継ぎの際に、その日の利用者の様子を伝えている。	
△	31	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		
	32	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	33	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	34	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	35	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	36	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	37	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	38	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		

39	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0		
40	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0		
41	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
42	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
43	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0		
44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0		